

# 共通手続きプラットフォーム「AIRPOST」

—日本の手続きを、ひと続きに—

銀行における紙面での口座振替、住所変更のたびに行う各社への届け出、アプリごとに求められるID・パスワードの管理や入力。このような手続きを不便だと感じたことはないだろうか。今回紹介する、共通手続きプラットフォーム「AIRPOST（エアポスト）」はその煩わしさを一挙に解消する、新たなソリューションである。その活用によって生活者の諸手続きはワンストップで楽に完結する。

## 企業の「協創」によりワンストップを実現

AIRPOSTは、携帯キャリア3社・金融機関5社・トッパンフォームズによる1年以上の協議・検討を経て実装されたプロジェクトである。携帯キャリアの「お客さま接点／安心感」、金融機関の「金融面での堅実なサポート体制」、トッパンフォームズの「強固なセキュリティ／デザイン力」という各々の強みを掛け合わせ、スマートフォン普及に伴う顧客のライフスタイルの変化に合わせた新サービスを提供できないか、議論を重ねたどり着いたのが、同じ手続きを企業ごとに行うのではなく、スマートフォンでの1回の入力で完了できる共通プラットフォームの実現である。コロナ禍においてこの一括電子申請の役割は大きい。

ワンストップで様々な企業への手続きを完了させるためにはAIRPOSTの協創プロジェクトへの多くの企業の参加が必要である。現在の参加企業は20社だが、今後さらに多くの企業が参画していくことで、協創の輪は大きく広がっていく。2021年以降には災害時手続きや行政手続きへの対応、マイナンバーカードを活用した公的個人認証サービスとの連携などの機能拡張も計画されている。協創の輪は、生活者をも巻き込み、新たな生活者の価値(UX：ユーザーエクスペリエンス)を次々と生み出していくことになるだろう。

## 当たり前だった手続きのストレスを解消

生活者が口座振替手続きをする際、スマートフォンに一度入力すれば、既にAIRPOST上に登録している企業に自動的にデータ連携されるため、それぞれの企業に対して面倒な口座振替手続きをせずに済むようになる。住所、電話番号、メールアドレスなどの個人情報の変更も同様に、

一度入力した変更内容が登録済み企業に共有されるという仕組みが近々実現する見通しである。また、取引情報報告の手続き(マネー・ロンダリングなどの対策の一環として、金融機関などが行う確認手続き)も、今後提供されるAIRPOSTのサービスを活用すれば、複数の金融機関へまとめて回答したり、回答内容を再利用したりすることが可能になる。

AIRPOSTは、携帯大手キャリア3社の参加により、電話番号を起点として各種手続きが可能となるため、たくさんのID・パスワードを管理したり、入力したりする手間も不要になる。個人情報保護の観点に留意しつつ、この仕組みを実現するに当たって、通信時や保管時の暗号化、外部セキュリティベンダーによる脆弱性診断など、高水準の技術的、物理的、組織的、人的安全管理措置が講じられているとのことである。

AIRPOST上の様々なサービスの活用によって、生活者がこれまで当たり前として受け入れざるを得なかった手続きに関するストレスは今後ますます解消されていく。



◇AIRPOSTサービスサイト(左)

<https://airpost.toppan-f.co.jp/service/>

◇AIRPOST+メッセージ公式アカウント(右)



(国内広報部主任研究員 森山洋平)